

今月の谷口雅春先生のお言葉

# 顔の表情ひとつから人に深切しんせつができる

人に深切しんせつにする味わい

人と人とは肉体を見ておきますと、彼と我われ、我と彼とは相分あいわかれているように見えますが、本当はただひとつの神いのちの生命いのちが、そういう具合に分れて出たように見えてい  
るだけであって、決してこの別々の存在ではないのであ  
ります。この真理ことを知るのを、自他じたい一体いつたいとか事々無礙むげと  
か申します。まことに人に深切をしてあげ、人が幸福に  
なるとこちらも嬉うれしい。この私達が人に深切をした時の  
嬉しき、というものを振返ふりかえって味わってみますと、長く

別れておったところの親子が再び出会ったような、兄弟  
または夫婦がひさしぶりで出会ったような何とも言えな  
い喜ばしい感じなのであります。これは人間は本来もとから、ひ  
とつの神様の生命いのちの水みづが吾々われわれに流れ入いって人間となつて  
いるので、同じ生命いのちの別れであり、兄弟であり、親子で  
あり、本来他人というものは一人もない。それが別れた  
ように見えていたものが一つに合あつする——その喜びを感  
ずるのであります。

分かれていた半分同士が一つになる——そこに深切を  
すれば嬉しいという根本原理があるのであります。

（光明思想社版『人生読本』162～163頁）

## 利己主義では自分の心が苦しくなる

ところがこの自他一体の観念の少ない人は利己主義になるのですが、利己主義になってまいりますと、自分が偉くなるためには人を貶けなさなければ偉くなれないという気持がしてくるのであります。自分が八十点ならば他を七十点にし、六十点にしなければ自分が偉く感じられない事になって人を嫉妬しつとするようになります。金持かねもちを見れば癩しやくに触さわるし、自分より点数の多い学生は憎にくらしいし、自分より収入の多い社員には腹が立つ。そういう嫉妬を起す心になると、自分の心が苦しい上に自分が立身出世できないのです。(中略)

私達は弱きをも助けるが、強きをも挫くじく事は要らないのであります。弱きにも深切しんせつにし強きにも深切にし、どちらも褒ほめてみんなを生かし、みんなを味方にしてゆくという事によってのみ私達は本当に生長することができるのであります。(光明思想社版『人生読本』167～171頁)

## 人に好かれるコツ

人に好かれるコツの一つは表情にあるのです。表情と  
いうのは、その人の顔にあらわれている感じですが、人の顔付かおづき、感じですが。その人の顔を見ると何となしに好きになれる人と、何となしに嫌いになる人とがあるでしょう。この事は全く不思議な問題です。

皆さんは「私の顔は生うまれつきだから仕方がない」とお考えになりますか。そうお考えになりますならば、それは間違まちがいです。顔の感じは常かに変わかわっているものです。今、あなたのお母さんが死にましたという電報が来ましたら、あなたは悲しい顔をなさいます。その悲しい顔の感じはあなたが喜んでいる時の感じとは異ちがいます。あなたが不平ふへいで膨ふくれている時の顔の感じと、あなたが深切しんせつに赤ん坊をいたわっていられる時の顔の感じとは異ちがいます。

(光明思想社版『人生読本』236頁)

何にでも深切な気持の人は人に好かれる

あなたが常に人々に対して深切な好意ある表情をしていられたならば、あなたに対つた人は常にあなたから好い感じを受けましょう。あなたから好い感じを受けますたら、その相手の人はあなたを好きにならずにいられないでしょう。あなたを好きになったら、その人はあなたに深切にもしてくださいますし、また色々とお世話もして、出世に導いてもくださいますでしょう。

（光明思想社版『人生読本』237～238頁）

善い言葉は人生の宝

善き言葉は人生の宝であります。何がなくとも「深切」は言葉でできるのです。貧乏では深切ができない、金がなければ深切ができないというようなものではないのであって、私達は深切の第一歩を言葉によって実行

する事ができるのであります。人に深切な言葉をかけてあげる、人が意気銷沈している時にそれを鼓舞して高め上げるような言葉を出す、これが深切であります。人が誰も同情してくれない、淋しくなって人生を呪うような心の起つた時に、本当に深切な表情をして、深切な微笑を投げかける、これが深切の実行であります。誰だって微笑はできるのであります、その深切な微笑がどれだけ相手を生かす事になるかわからないのであります。私達は、なんにも持っていないから深切ができないと言うのはあまり物質的な考えに執られているのであります。本当に深切にしようと思えば、どんな場合でもできないという事はないのであります。常に優しい心持をもち、愛に満ちた露いのある心を持ち、人に接する時、拝み合い感謝し合い、相手を尊敬して、その自信を失わしめない。これが深切の中の一番深切になるのであります。

（光明思想社版『人生読本』183～184頁）